



久しぶりの再会で会話が弾みます

町の暮らしを感じてもらい、移住につながるため「30歳の集い」を開催しました。
令和2年度から4年度に、30歳を迎えた出身者や在住者31人が参加。久しぶりの再会を喜ぶ声があがり、和やかな雰囲気での交流を深めました。
歓談後には、特産品が当たる抽選会や飯南町クイズ、しめ縄づくり体験で町の魅力を再認識。普段は当たり前にある、町の資源や暮らしを参加者を感じてもらった機会となりました。

飯南町30歳の集い開催

2月11日(土)



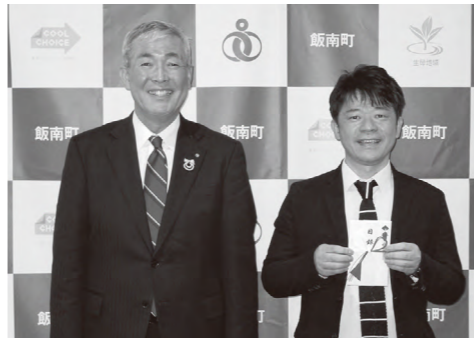
家族でしめ縄づくりを体験



全員、笑顔で集合写真

ビジネスプラン 優秀賞決定

1月23日(月)



本町を拠点にプランの実現を目指す陶山さん(右)

町内での起業、第2創業を応援する「ビジネスプランコンテスト」で、次のビジネスプランを優秀賞に選出し、目録を授与しました。
【優秀賞】飯南町の土地の利を生かした農林産物の生産
【提案者】陶山大志
陶山さんは、林業従事者の経験から、造林に必要な林業用苗木の生産コストを抑え、安価で良質な苗木を供給できる仕組みを提案。本町を拠点とした、中山間地域のビジネスモデルとして評価されました。

島根県立大学と 包括連携協定を締結

1月23日(月)



さまざまな地域課題の解決に取り組みます

本町と公立大学法人島根県立大学との間で「包括的連携協定」を締結し、締結式を行いました。同大学の持つノウハウやネットワークを生かし、「まちづくり」「国際交流推進」「人材育成」「保健医療・福祉の向上」などに取り組んでいきます。
県立大学の清原正義(まこと)理事長兼学長は「これまでも看護栄養学部を中心に連携はしていたが、今後はまちづくりや人材育成の分野でも貢献したい」と話していました。

まちづくり講演会

2月4日(土)



クイズや意見交換などもあり、和やかな雰囲気

来島交流センターで「みんなであつくるまちづくり」をテーマに、まちづくり講演会を開催しました。
講演では、島根県立大学地域政策学部准教授でローカルジャーナリストの田中輝美さんが、先進事例を交えて「まちづくりを野球チームに例えると、関係人口は助っ人。心強い存在です。ただ、地域の人たちの育成も合わせて必要です」と参加者に伝えました。
後半は自分のやつてみたいことやどんな人に関わってもらいたいのかを話し合いました。

東京農工大と 上智大の学生が 本町で調査を実施

2月9日(木)
～11日(土)



学生の多くは留学生。英語と日本語で意見交換

本町と農業・新産業振興を図る連携協定を結んでいる東京農工大学と、同大学と共同研究の中の上智大学の学生が、2月9日から3日間、調査のため来町しました。
学生は河川や井戸の水質調査、ほ場や果樹園での土壌調査を実施。生産者の皆さんとの意見交換も行いました。
2月10日には、両大学生と飯南高校生が交流。高校生と文化や学校生活の話で盛り上がりました。

可燃ごみ指定袋変更

本町と雲南市で組織する雲南市・飯南町事務組合では、ごみ処理施設の統合に伴い、可燃ごみの指定袋を統一することにしました。
これにより、令和5年4月1日から、可燃ごみの指定袋が次のとおり変更になります。
①新しい可燃ごみ用指定袋は、大(45リットル)中(30リットル)小(20リットル)の3種類。
②袋の色はこれまでどおり黄色で、文字の色は赤色系に変更。
③販売は1セット10枚入り。
●販売価格(税込)
・大1袋10枚入り 5000円
・中1袋10枚入り 4000円
・小1袋10枚入り 3000円
旧袋は引き続き9月30日を目途に利用できます。新しいごみ袋は4月1日以降、指定店で購入できます。
併せて、事業所からの直接持込みのごみ手数料も変更となります。詳しくはお問い合わせください。

飯南病院の 新しい職員を紹介

2月1日付けで、飯南病院の体制強化のため、新たに臨床検査技師を採用しました。



齋藤正弥さん

これまでは検査機関に勤務しておりましたが、地域医療に携わりたい思いが強くなりました。
この度、飯南病院での勤務となりましたので、町民の皆さんに信頼していただき、地域に貢献できるよう頑張ります。

■問合せ
雲南市・飯南町事務組合掛合事業所内
環境事業部 ☎62・9550
いしクリンセンター ☎72・9217
住民課 ☎76・2213

新しいごみ袋3種類

